

議 事 録

会議名	令和5年度第1回寒川町総合計画審議会		
開催日時	令和5年8月3日（木） 10時00分から12時12分		
開催場所	寒川町役場 別館3階 議会第1・第2会議室		
出席者名、 欠席者名及 び傍聴者数	<p>< 委員 > 小川雅子、相田孝、森井順子、及川和彦、齋藤正信、高橋伸隆、 内野晴雄、天利幸一、菊地端夫、釧持麻衣、野田春希、小林誠 （欠席者） 篠田寛、山本哲、橋口翔、落合裕子</p> <p>< 事務局 > 深澤企画部長 （企画政策課） 関根課長、奥谷副主幹、山下主査、北田主任主事、酒井主任主事</p> <p>※ 傍聴者 1 名</p>		
議 題	<p>(1) 会長の選出について (2) 会長職務代理者の指定について (3) 寒川町総合計画審議会の進め方について (4) 寒川町満足度アンケートの結果について (5) 寒川町総合計画 2040 第1次実施計画事務事業評価結果について</p>		
決定事項	<p>議題(1) 会長の選出について【菊地端夫委員】 議題(2) 会長職務代理者の指定について【山本哲委員】 議題(3) 寒川町総合計画審議会の進め方について 【事務局から内容説明し、委員から別添のとおり各種意見等あり】 議題(4) 寒川町満足度アンケートの結果について 【事務局から内容説明し、委員から別添のとおり各種意見等あり】 議題(5) 寒川町総合計画2040第1次実施計画事務事業評価結果について 【事務局から内容説明し、委員から別添のとおり各種意見等あり】</p>		
公開又は 非公開の 別	公開	非公開の場合その 理由（一部非公開 の場合を含む）	
議事の経過	<p>○ 開会</p> <p>1 委員委嘱状交付 2 町長あいさつ 3 委員自己紹介</p>		

4 議 題

(1) 会長の選出について

委員より事務局案提示の意見あり。
事務局案として菊地端夫委員を提示。
各委員了承により会長：菊地端夫委員

(2) 会長職務代理者の指定について

会長より山本哲委員を指名。
各委員了承により会長職務代理者：山本哲委員

(3) 寒川町総合計画審議会の進め方について

＜事務局から資料1に基づき説明＞

【会長】資料1にございますとおり、会議自体が、本日も含めて年に3回予定しておるとのことと、本日と次々回が一般的な審議会の進め方と同様に、今回は、事務局から昨年度の事務事業の進捗状況の報告があって、それに対する質疑応答が行われる。第3回、2月頃は2040の第1次実施計画を、この評価に基づいて修正をしていき、その修正内容について審議を行うことになっております。

第2回、11月頃が、昨年度から引き続きお務めの委員は何となくイメージがつくと思うのですが、前回は2つのグループに分かれて委員同士で町職員のモチベーションを上げるための施策をテーマに議論、検討して、出た案を町側にお返しをして、現在、町のほうで委員同士での議論での様々な提案について検討をいただいております。その検討の結果というのが恐らく次回以降に、我々の議論を踏まえて、こういう形で進めていきますという報告があると聞いておりますが、まずはこの進め方として、次回はこういった委員同士の議論を行うという事務局の提案でよろしいかということが1つ。それでいいということであれば、どういうテーマがふさわしいのかということについて、もしかしたら本日は決められないかもしれませんが、いろいろな議論するテーマの案について頭出しをできればと思っております。委員から何か御質問あるいは御提案などありますでしょうか。

【齋藤委員】今後の進め方の考え方の一つとして、事前に資料をいただいて、今回、アンケート結果報告がされるということですが、このアンケートの対象者が、4万8,590人という位置づけで、回収が568ということになっている。さらに、この中で9ページを見ますと、年齢別で回答数が表示されている。まず、全体像から見ていくと、4万8,000に対してのアンケートの参加率を捉えていくと、10%に満たない。ということは、整合性として、このアンケートは適正として判断していいのかというところがある。

20代、30代、40代、50代までを年齢分布で全部足すと0.07とか0.018、という数値になる。それは1つのマーケット市場の分析も含めてですけど、適正と判断していいのか。悪く捉えると、町民の意識のなさということにな

ってしまうか、あるいは逆に担当者とするれば、これを去年の2040の事業成果の判定を判断というのは、このアンケートではできないのではと思う。そういう意味では、例えば、商工会の中に事業者がいたり工業者がいたり、いろいろな団体がある。あるいは、消防団員が何百人といたり、今日参加されている人たちの関わっている団体がいるが、その人たちから選び出して、アンケートを行って、全体で550の数字というのは、ある程度、信用度からいけば認められる数字だと思うが、実際にこの数字が出されたアンケートと、本来それを信頼性として認めている数字、いわゆる評価される数字というのは若干違っている。

そういうことだと2回以降について、委員さん同士が仮に議論したとしても、このアンケートベースの信頼性は若干違うという意味からいけば、今言ったそれぞれの関係する団体協力者にもう一度フィードバックして、本当にこういうそれぞれの関わる場所に対しての進捗度合いとか、あるいは、それに伴って、もっとこうすべきではないか、あるいは、ここは要らないのではないかとということも含め、本音のところの現場の実態把握というのは本来どこかでやっておかなければいけないと思う。何か上滑りで、ただこういう結果でしたという数字でしたら、何のための会議なのか、はっきり言って、ただ雲の上の会議をしているだけで終わってしまうような気がしたので、その辺はもう少し明確にしておく必要があるのではということ、検討してください。

【会長】ありがとうございます。次の議題の御意見も含んでいたのかなと思います。事務局のほうで今の御意見についていかがでしょうか。

【事務局】 次の議題の説明にも重複してしまうところはありますが、今回、令和5年度にアンケートを実施しました。実施した内容としては、神奈川県電子申請システムを通じてということでやらせていただいております。555件の有効回答ということですが、統計学で、寒川町の人口規模で言うと、381件あれば、町民全体から回答を得た場合と誤差がほぼないと言われております。381件に対して、今回555件という有効回答でしたので、そういった意味では、誤差という部分では気にされることはないかとは思いますが。ただ、回帰分析等やるに当たっては、確かに555件だと要因と結果がうまく結びつかないというようなところもありますので、回答数は増やしていかなければいけないと思っていますので、それは我々の今後の課題と思っていますので、今御提言いただきました関係者の方々にも積極的に回答いただけるような形で、アンケートの調査を考えていけたらと思っています。今回も、アンケートの結果、回帰分析等については御参考までという形で御提示させていただくつもりでおりますので、その辺りを考慮していただければと思っています。アンケートのやり方自体は、今後改善に向けて考えていきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

【齋藤委員】 寒川の今の人口でいくと381あればその枠に入っているという。でも、この381というのは、この回答する人たちの対象の信頼性が90%、95%以上の信頼性を持って381だと思う。そういう意味で、その中の信頼性の中に、それに当てはまっているのかということについては、そういう説明をされると、またさらに疑問だと思う。

【会長】ありがとうございます。母集団に対する抽出については、今、御説明していただいたとおりのことと、あとは、アンケートのサンプル数が幾つ必要なのかということについては、設問数の数とも関わってくるのですが、テクニカルな話をする時間を取ってしまいます。1つ御意見としては、このアンケート調査、これ自体が2040を評価する絶対的な指標という形ではなくて、その一つにすぎないということだとは思いますが、こういったアンケート調査を含めた進捗の成果指標について議論をするということも、齋藤委員の御提案としては、進め方の議題につなげるとなるのかなと思いましたが、ほかにいかがでしょうか。

【高橋委員】調査のアンケートの取り方というのは非常に難しい。統計学を取るときに、やはりロット数が少なくても選出の仕方によっては十分信頼性は高くあるわけです。非常に有名な例ですけど、テレビ番組の視聴率の検査は全国で500件ぐらいしかないわけです。だけど、その500件というものは非常に緻密に計算して、ランダムにその500件を決めているから、ある意味では非常に信頼性が高いということですけど、今回のこの場合、私もじっくり読ませていただいて、アンケートを取ったのが、広報に載っているのと、広報から回答をもらう、あとはホームページから回答をもらうということになると、それに関心がある方が10人、20人固まって、同じ意見を出してしまうと、それに全部流されているような感じになるので、調査の仕方が、4万8,000人全員に出したからそれでいいではなくて、対象者をもう少し、研究されていると思うのですが、その辺が明確になると信頼性が高まるのかなと思います。

【小林委員】2つございまして、まず進め方のところで、昨年、職員の方のモチベーションアップのテーマのときに、2グループということだったのですが、会社でもいろいろそういうやり方をするのですが、チームビルディングということで、3グループぐらいにしたらどうですかね。2グループだとそこでしかディスカッションできないので、違う考え方も入ると、多分メンバーでいうと、5人、5人、5人ぐらいでいけるはずなので、去年、2で問題なかったかという話と、3で刺激を入れたときに、化学反応でもっといいものが生まれませんかというのは、皆さんと相談したいというのがあります。

あと、データの取扱いのところです。私も自分の話ばかりしていますが、車を売って、お客さんの評価というのをいろいろデータでやっていますので、全部の方は取れないので、手法ですけど、ウェーブバックという方法で、信憑性のあるデータにかけてやっているのですが、私も住んでいるので、このアンケートを見たときには、一つ、広報とかウェブとかLINEで来た調査の仕方と、もう一つ、町内のアンケートで、毎年ノベルティーをつけてやっているやつありますよね。あの2つがあるのに、どうしてこちらは神奈川県システムを使って新たにやっているのだらうと思ったのです。だから、今回のデータも、前調べたデータとあまり乖離がなくて、ウイークポイントもストロングポイントもあまり変わっていないから、それはいいと思うのですが、なので、このデータを使うときには、先ほど齋藤さんからもありましたとおり、ある程度市内の有識者の方で見ていただいて、このデータ結果が、肌感にはなってしまうかもしれないけど、齟齬がな

いかという評価を行うことと、あと、サンプルということ言えば、ノベルティーをつけてLINEでやっているというのは、関心の高い方、若い方、お年寄りの方、あれ全部結構取れていると思うのです。どうしてあれを使わないで、こっちを新たに使ったのかなというのはちょっともったいないなと思った側面がありました。

ただ結果的に、ウイークポイントとストロングポイントが実情に合っているデータであれば、1%と少ないデータでありますけども、これをたたき台にしてやっていくというのはありかなと思いました。

【会長】ありがとうございます。高橋委員、小林委員、それぞれの見識から御意見をいただきました。小林委員への回答ということでは、昨年が2グループでしたね。おっしゃるとおり、3グループでやっても問題ないのかなという気がしておりますが、昨年御参加いただいた方々、感想としてはいかがでしょうか。むしろ小さいほうがやりやすいとか。

【齋藤委員】私は2つぐらい。いろいろなジャンルに入ってしまうと、ある程度理解できる部分と理解できなくて、そのまま参加しなくてはいけない部分があるのですね。逆に2つぐらいですと、その中の意見を聞いて、ある程度発言が整理されるという意味では、小さくして、専門性の高い人ばかりで、3つ、4つのグループは大いにいいと思うのですが、私なんか、どっちかという、専門性があまりない人間が小さいのに入ったら、より小さくなってしまって、何言っているかわからなくなってしまうというのもあって、私は2つぐらいがよかった。

【会長】ほかにいかがでしょうか。事務局としてはいかがでしょうか。テクニカルな話で言うと、2つでも3つでもどちらでも問題はなさそうですが。

【事務局】昨年度グループ分けしたときは、適正的な人数としては、1グループ4名から5名、多くて6名ぐらいかなと思って設定させていただきました。当日は、参加された委員の方が全員ではなくて、10名だったか11名ぐらいだったので、その人数を踏まえて2グループでやったような形になります。参加人数によっては、事務局としては3グループでもいいのかなとは思っているのですが、議論しやすい1グループの人数を踏まえて設定していければと思っております。

あと、アンケートの取り方につきましては、従来、やり方としては郵送で、住民基本台帳から無作為で選んで、その方たちにお送りをして回答していただくということをやっております。ただ、それを毎年やってしまうと、あまり変化がないと、非常に事務量が増えてしまうのと、住民の方に、紙でやると結構大変だったり、郵便を出しに行く手間をかけてしまうということで、4年に1回郵送をやるという形で考えております。中期については前は令和2年度にやっております、次回は令和6年度、来年度、4月、5月ぐらいに実施をしようかと思っております。

ただ、間の変化も捉えていきたいなというところで、寒川町のLINEを展開しております、今、1万9,000人ぐらい登録をされておりますので、そういった方々に、LINEを使って、先ほどお話しいただいたような広報と町のホームページで周知をして、多くの方に御回答いただければと思って、その形でや

らせていただいております。今回、555件の有効回答数だったのですが、昨年度は1,200集まりましたので、今回、ちょっとやり方がよくなかったのか、より多くの方に集まるように、来年度、LINEの周知の仕方とか検討していきたいと考えております。

あと、eマーケティングリサーチ制度というのがあって、その方々はeマーケティングリサーチ制度に登録をさせていただいて、町のアンケート調査に回答していただいて、回答していただいた数に応じて返礼品をお渡ししているという取組でございます。今回のアンケートも、もちろんeマーケティングリサーチ制度を使うかどうかというところで悩んだところではあるのですが、アンケートを取る上で、eマーケティングリサーチ制度に登録しているということは、行政の活動に非常に興味を持っている層の気持ちを知れるものになりますが、今回取りたかったのが、行政に関心がない方の満足度も把握したいということで、eマーケティングリサーチ制度ではなく、LINEのプッシュ通知とか広報、ホームページを通じてアンケートを取ったという形でございます。

アンケートの取り方は、非常にいろいろな方法があり、周知の仕方もいろいろありますので、本当にその時々で取りたい情報の目的を踏まえて、今後もアンケートの方法を検討して、改善していければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【及川委員】今の説明で言うと、それであれば、アンケートを取る前に、今回はこういう目的というか、こういうことを目指してのアンケートです。例えばeマーケティングというのは、行政に関心がある人が多いから、今回はそれ以外の人の意識を調べたかったというのであれば、報告でも何でもいいですから、そういう目的でのアンケートでしたということをちゃんと明示してほしいです。僕もeマーケティングに入っていますが、あれだけ人数が登録しているのだから、それを使わない手はないでしょうと思っていたのですが、今回はアンケートをeマーケティングやったかなと思っていたのです。そういうのが疑問としてはあったので、もしそれを使わないということでは、こういう理由で今回のアンケートはこういう取り方をしました、あるいはこういう人を対象にやりましたってやらないと、この結果は行政に関心のない人のアウトプットだということをおっしゃっているのですよね。

そうすると、2040が行政に関心ない人だけのアウトプットでいいのかという、また新たな議論というか、悩みが出てしまっているのです。だから、少なくともそこは明確にした上でやるということを進めたほうが乖離が出なくていいのではないかなと思うのです。

【会長】ありがとうございます。次の議題を大分消化していただいておりますが、ほかにいかがでしょうか。恐らく2回目については、委員同士で議論をするということについて、2グループにするか3グループにするかについては、実際に参加いただける人数によって柔軟にできればと思いますが、これについては、恐らく皆さん、合意をいただいておりますのかと思います。こういったテーマがいいのかということについて、こんなテーマもあるのではないかと、もしあれば、おっし

やっただけだと思います。今回初めての委員さんもいらっしゃいますので、昨年、どういう経緯でこのテーマになったのかということについてお知らせしますと、委員から、こういうテーマで議論したいというテーマを募りました。加えて、事務局からも提案をいただきました。

結果的に4つぐらいのテーマが出てきて、それを委員みんなで、郵送で投票したのです。そうしましたら、2つのテーマが同数になって、事務局から御相談を受けて、その中で、町職員のモチベーションという、言わば職員だけではなかなか議論はしにくいテーマ、あるいは、町の職員というものも2040を推進していく非常に重要な資源なわけですから、それを我々で議論をしようということでテーマを選びました。前回テーマにならなかった3つのテーマについて、前回参加して御記憶ある方もいるかもしれませんが、にぎわい交流創出ゾーンの方向性について自由に意見交換できないかですとか、あとはウィズコロナのコミュニティーの維持について、あとは町の魅力を向上させるための施策を検討する、昨年度没になったのですが、ただ、これにとらわれる必要は全くございません。今回、釘持委員のように、環境の専門家に入っていて、本日のようなまさに気候変動の影響を受けているような暑い日が続いておりますので、例えば、環境について議論するとかという形でも全く問題ございません。何かございますでしょうか。今日で決めるということではないですが、頭出しをいろいろできればと思います。

【齋藤委員】 テーマのつくり出しとして、どういうテーマがいいかというのと、先ほど言ったアンケートのこともあるが、個人的に見て、結構難しいなと思った。例えば、消防体制の充実というものです。アンケートでは、大半の人が低い評価をしているが、実際、広域行政になって、救急車の出動の時間の問題だとかものすごくアップしているのです。そういった意味で、ここに書いている、まとめているのは違う結果が出ているというのもあるが、先ほど話があった、にぎわい創出、2040の重点課題をいかに早くどうやったら促進できるのかというようなところに、ある意味では、これを具体的にどうしたらいいのか、どう進めたらより、それが重点項目をいかに早く促進するか、したらいいのかというところのテーマがあっても私は面白いな、そういうのがあればそこに参加したいなと思います。

【会長】 ありがとうございます。重点テーマを早期に促進するためにはどうしたらいいのかというような一つの案でした。ほかにいかがでしょうか。何でも結構です。

【小川委員】 今、齋藤委員がおっしゃったように、重点施策を決めるというのはいいと思ひまして、あれもこれもってなかなかやりきれないので、まずは一丁目一番地になるようなテーマを掲げて、そこから派生して、いろいろな分野の専門家の方がいらっしゃるの、こうしたらどうか、ああしたらどうかというのが派生していきながら、本当にブランディングというか、出ればいいのか。やはりそのためには重点施策、一丁目一番地というのをまず掲げて進めていきたいなと思っています。

私は、このアンケートを見たときに、長く寒川町で暮らしております、肌感

覚的にはそうだろうなみたいなことも結構ありましたので、満足度の低いところ、やはりそうだよなと思うところ、お子さんがいる家庭だったら、今、学校も再編しますから、そうすると、通学路も変わってきますので、道路事情の安全、交通の安全というところとか、道路の整備とかそういうのも大変気になるところだと思いますし、商業振興の満足度のところでは、かなり満足度が低いので、やはり近隣に比べると、どうしても私たち、買物に行くときに他市に行ってしまうのですね。農産物に関しては寒川が一番すばらしくて、身近で食物は手に入るのですが、農産物以外のものになると、どうしても車に乗って、あっちの市、こっちの市とどこかに買いに出なくてはいけないので、そういうところが商業の振興の満足度として低くなるのかな。寒川町にも、あそこが来ればいろいろなものがそろろろというのがあったり、また、それと防災と併せて、例えば、何かの建物を造ったときに、平塚のジ・アウトレットもそうですけど、いざとなったら地域住民の防災の力になる、発電ができるとか、車なんかは立体駐車場の上に上げれば、ハザードがついている土地が多いので、みんなの車を守れますよとか、そういった抱き合わせでいろいろなことを、1個決めて、そこからこの問題も解決できる、この問題もこうすれば解決できるという相乗効果でやっていけたらいいなと思っています。

【会長】ありがとうございます。今、齋藤委員と小川委員の御提案というのは、第2期の実施計画の議論の頭出しみたいなもののイメージで、事務局としても受け止めるとしたら、どうでしょうか。タイミング的に言うと形になるのかと。

【事務局】お二方からいただいた意見につきましては、これまでうまくいっている事業、うまくいかない事業、いろいろあるわけです。また、その方の属性によって、課題がやはり違ってくるといったところで、町としては、地方創生事業を主要事業として総合計画の中でも位置づけている中では、教育だとか、そういった部分があるいろいろな当てるのかなと思っております。ただ、やはり課題としては、まちづくりの中で、行政が施策は、町民の住民福祉の向上ということで考えていきますと、やはり町民から多くのニーズがある、しかもそれが整っていないというような御意見がある中でいきますと、先ほどアンケート調査結果報告書の中の35ページになりますけど、ポートフォリオ分析をしております、アンケートの確実性の話もちよっとありますけど、その中では、分析結果を見ますと、今後の重要度が高い、かつ現状が低いといった、今後力を入れてほしいといった御意見が出ているのが、ポートフォリオ分析の中では、左上の幼児教育だとか家庭教育から公共交通だとか勤労者対策、こういった様々な分野にわたっておりますので、そういったところが足りてないという中で、例えば我々、事業としては成果が上がっていると判断しつつも、結局はCSとして評価されていない部分があるということになると、そこは事業の根本的な見直しが必要ということも、もしかしたら視野に入れなければならない部分になりますので、そういったところを皆さんから御議論いただいて、貴重な御意見をいただくと、それを事業に反映することも、次の第2期実計が令和7年度からスタートいたしますので、実際令和6年度、まだ若干残っておりますが、令和6年度の改善を含めて7年度に結びつけ

ていくことも視野に入れることも可能なのかなと思いますので、そういったところから選んでいただくと、我々としては生かしやすい部分があるのかなとは思っています。

ただ、先ほどあったように、様々な課題があって、やはり寒川町、大プロジェクトがあります。新幹線の問題だとか、にぎわい交流ゾーン、それと公共施設の再編、この3つは本当に大きな問題ですので、こういったところの御意見も正直いただきたいというのがありますので、そこは委員の皆様で、大プロジェクトで大きなところから先の、もっと先のビジョンから攻めていくのか、身近な住民福祉の向上をいち早く上げていくのか、そういったところをどの視点で委員の皆様のほうで議論していきたいといったところを、会長のもとに決めていただくと、我々としてもそこに従っていきたいとは思っております。

【内野委員】今、部長が言われたように、確かに目先の部分の、今、寒川の課題というの也非常に重要で、それはやらなければいけない。ただ、2040プランという将来に向かってのビジョンをこの審議会で。私も神奈川県いろいろな会議とか、いろいろな人たちとの話をするが、ただ地元で勤めていると意外と分からないのですが、寒川町のポテンシャルというのを皆さん、ものすごく評価しています。寒川町の可能性というのを、将来ものすごくあると皆さん見えています。そういう中で、今やらなければいけないことと、あと、将来に向かってやらなければいけないこと、きちっと2つに分けて考えなければいけないと思うのです。やはり将来に向けて、40年にこういう町になる。それは、今からやらないと、例えば、都市計画とかの問題もありますから、今手をつけないとできないよという、人口減少社会になっていくと、もうできなくなってしまうと思いますので、ただ、そのポテンシャルを活かす、新幹線の問題もそうですし、複線の問題もそうですし、にぎわい交流ゾーンもそうなのですが、やはり今、町が取り組んで、今から旗を振っていく、それが県のほうは当然、寒川町のやる気を見えていますので、その辺で、ポテンシャルがあるのは皆さん理解していて、それを本当にみんながやる気があるということになれば、必ず動くと言っていますので、その辺が町民も含めて、行政も含めて、各団体も含めて、一丸となって、寒川町をこういう町にするという、2040年に向けてこういうふうにしていく、それが逆に、先ほど言われた福祉の問題とか、いろいろな問題もクリアするのに、それも必要なのではないかと。逆にそれがないと、やろうと思ってもできないのではと思いますので、ぜひその辺、両立を考えていったほうが良いと思います。

【小林委員】順番にいくと、チームビルディングのところは、実際に参加する方が10人ぐらいになるだろうということなので、半分半分が良いと思います。会社だとすぐ勝負したいので、3、4グループつくって切磋琢磨させるのですが、多分それほど人数ではないと思うので、2つで良いと思います。あと、データのところは、eマーケティングは1万人ぐらいいるのですか。

【事務局】L I N Eの登録者が約1万9,000人です。eマーケティングリサーチ制度が450ぐらいです。

【小林委員】もちろん行政への関心は高いと思うのですが、好意的な方ではなくて、

金券は欲しいけど、何か物を申したいという人もいると思うので、そういう意味では、少しネガティブな感度を持っている人も多分入っているはずなので、年齢分布等を含めて、あれはいいものだと思うので、活用したほうが良いと思います。あと、データのところは先ほどありました35ページ、SWOT分析みたいな、弱み、強みみたいなところなので、ここから主に取り組むべきは左ですよ、2個。これというのを、寒川が抱えている大きな問題3つに照らし合わせながら、こことコネク特させる感じで中長期、2040までという形で幾つかつくれるといいと思っています。

あと、データとしては非常にまとまっていて、ずっと入ってくる感じだったので、14ページぐらいからだ、結構全部富士山型になっている感じなので、中央的な回答が多いということしか見ないと思うのですね。なので、有効得票数あると思うのですが、円グラフ、比率にして、あと、すごく分かったのは、平均ですよ。ここが3を割っているような、2.5前後というのは全部少しやばいところなので、これが最後SWOTに出ていると思うので、これを見ただけでも、2.5ぐらいの、16ページの郷土教育の推進の満足度とか、17ページの障がい福祉の満足度、18ページの住環境向上とか、21ページ真ん中の地域医療の充実、2.35、22ページの道路整備、26項目のやつで2.19、商業振興の満足度、24ページの31項目、1.88、観光振興の満足度、25ページ、34項、1.9、弱いところ、全部見えているので、これらがSWOTに多分出ているはずなので、ここを先ほどの重要な3つとかと中長期のプランということで、幾つか皆さん考えていただいて、総合的に解決できるような案立てをまた投票するのがいいかなと思いました。

【会長】ありがとうございます。35ページのポートフォリオ分析を基に、先ほど、内野委員がおっしゃっていたような、将来の大きなプロジェクトの方向性に併せて議論をするというのが1つありますね。このアンケートの議論が続いていますが、35ページで言うと、このポートフォリオ分析というのは、第1象限から第4象限まであって、第2象限、左上が最も重要という形になるのですが、これが満足度が低いのですが重要度が高い領域なのです。企業で言うポートフォリオ分析というのは、実はもう1点重要な点があって、左上により経営資源を投入するためには、全体の経営資源の総量は変わらないわけですから、どこから手を打って、どこから手を抜くのか、追加的な経営資源を左上に持つていくためには、どこかある経営資源をはぎ取らないといけないわけですが、それが右下、第4象限の分野になるので、もしかしたら委員同士の議論だからこそできるという意味で言うと、優先順位が低い事業というのは何なのかということ議論するのはどうかと思いました。職員の方で議論というのはなかなか難しいと思うのです。どれも重要だということはどうしても、行政が行う公平性という観点から議論になりがちです。むしろ将来的に寒川町行政として、人的あるいは金銭的、様々なコミットメントを退いていくべき分野というのはどういう部分なのかということ議論する。これは、委員同士だからこそできる議論かなと思ったりします。これはどちらかという、一委員としての案ですけれども。

ほかにはいかがでしょうか。大体今、テーマの案の頭出しということでお話をさせていただきましたが、例えば、野田委員、前回も参加いただいて報告までいただきましたけれども。

【野田委員】 今の話とは別の話になってしまうのですが。頭出しというところで、5月に小林さんも一緒に、公募委員サロンというのに参加してきたのです。寒川町のいろいろな委員が集まって、今、寒川町ってどうなっているのかというのを話し合ってきたのですが、結論がどう出たかという、お互いの活動を知らなくて、やはりおのおのがやっていて、このままだと問題は解決していかないし、うちだけの問題になってしまうねという話になったのです。そこから、どこかしの機関が引っ張っていかねばいけないという話が出たのですが、その後の具体的な動きは今ないです。今後活動していくということでまだできていないということなのですが、いろいろな問題とかもいっぱい上がっていると思うのです。ここだけでは絶対解決しないし、いろいろな機関との連携だとか、いろいろな委員会との連携って絶対必要になってくるので、そこを、例えば、この総合計画審議会から行政というだけではなくて、専門性を持って活動している委員との連携というところをもっと考えていけるような、ここで引っ張っていけるような、今まとめているので、委員会では、そういうような活動を考えるというのも一つあるかなと思いました。

【会長】 ありがとうございます。まさにつながる力というところの横の連携をいかに深めていくのかということ、特に公募委員サロンは、たしかまちづくり推進会議でつくったと思うのですが。そういったまちづくり推進会議のやり方とも関連しながら、それをどういうふうに進めるのかということ、議論するという感じでもいいのかと思いました。1つのテーマ案として承ればと思います。事務局としては、今回、大体頭出しが出たので、今後またこういうテーマということであれば、また事務局にお伝えいただいて、次回、11月頃までの中で、前回のよう形で、どういうテーマにするのかということ、恐らく郵送でまた返送させていただければと思いますが、あと、いかがでしょうか。

【事務局】 ありがとうございます。皆様からいろいろアイデアをいただきまして、テーマになりそうなものも見えてきたかなというところはあります。ただ、今日、お時間の都合もあって、これでいきましょうというテーマの決定まではなかなか難しいかなと思いますので、2回目の会議の日程調整をまた改めてさせていただきますので、調整を図りながら、テーマについても、こういったテーマが幾つか考えられますということを出させていただいて、委員の皆様から、それでは、これをやってみたいというようなところを出していただいて、早い段階でテーマの候補を決めて、2回目の会議に臨む時間をなるべく取っておきたいなと思っていますので、日程調整含めて、テーマも幾つかまとめて、委員の皆様にご提示できればと思っていますので、そういう形でお願いしたいと思っています。

【会長】 ありがとうございます。今御説明ありましたとおり、次回の日程調整の中で併せて議論していくテーマについても、前回と同様に日程とともに調整をさせていただくとして進めたいと思います。

【及川委員】今の件でお願いなのですが、せっかく検討するという事で、テーマを最初に御提示いただくと、そちらに引っ張られてしまう。なので、最初はやはり委員のほうに、どういうテーマでやったらいいかということでの照会をかけてほしいと思います。でないと、選択肢が最初からありきになってしまって、その中でしか選ばないと、本来の議論したいものとずれる可能性があるので、申し訳ないですけど、せっかくなので、審議委員の意向がなるべく出るようなということで考えていただきたい。

【事務局】ありがとうございます。では、今回いただいたテーマ出し以外のところでも、また持ち帰っていただいて、こういったところが考えられるのではないかというものも含めて、また各委員様からいただければ、こういう意見がいろいろありましたといったものの例示として出させていただいて、その中で募っていきながら、どれがテーマとしてふさわしいか絞ったうえで、2回目に臨めたらと思います。ありがとうございます。

【及川委員】期限を切って。

【会長】期限を切って、皆様に御連絡をいただいて、御意見がある方は送っていただくという形になる、そういう手続になるかと思います。よろしいでしょうか。

【事務局】また、事務局から追って事務連絡させていただきたいと思いますので、御連絡をお待ちいただいて、期限を設定させていただきますので、よろしく願いいたします。

【会長】では、よろしく願いいたします。

(4) 寒川町満足度アンケートの結果について

＜事務局から資料2に基づき説明＞

【会長】御説明ありがとうございました。もう既に大分御質問等出ておりますが、改めて御質問ございますでしょうか。今、御説明があった回帰分析のところについて、1点だけ私から補足といいますか、46ページ以降の重回帰分析の結果が出ており、この読み方ですが、折れ線グラフは右側の数字で読む、棒グラフは左側、決定係数というのは、棒グラフで左側の0.幾つという値を読む形になります。

【釘持委員】1つ前の項目とも関連するのですが、何を今後議論していくかということ考えたときに、35ページの分析結果はすごく興味深く見ていて、特に施策タイプⅠとかタイプⅡに沿ってやってもいいのかなと考えていたのですが、1点気になったのが、ここで言っている重要度というものが、令和3年度ということなので、あくまでも住民としての意識であって、町全体、本当に重要として捉えるべきなのかというところでギャップが生まれてないのかなというのが少し気になった点です。住民の認識としての重要度であれば、この35ページの仕分に沿って今後議論を進めていいのかというのは少し悩ましいなと思っている点ですし、まさに今回、総合計画審議会ということですので、2040研究会において国で議論されているのも、先に2040年のビジョンを描いてバックキャストイングしていきましようという発想ですので、割と広い視野でこの審議会では議

論したほうがいいのかなど思っております。なので、せっかく同じメンバーで何回も議論を重ねられる場ですので、どういうものを重要として、この町でこれは掲げていくのかというあたりも含めて議論していくのがいいのかなど思っております。このアンケートは特に、35ページの見方はちょっと注意しなければいけないかと思っておりますので、まず、この重要度をどういうふうに捉えているのかというところをお伺いできればと思います。

【会長】重要度について、多分、今回取ったデータではないということで、設問文が後ろについていないと思うのですが。

【事務局】こちらの重要度につきましては、今、釘持先生がおっしゃられたように、住民の方々にアンケート調査をして返ってきた重要度の数値になりますので、町が重要と思っているかどうかではなくて、住民が重要と思っているかどうかの結果になっておりますので、今おっしゃられたとおり、そういったことも踏まえながらテーマを選定していただければと思います。

【会長】重要度も、36、37ページにあるとおり、5、5のスケールで取っているのでしょうか。

【事務局】そうですね。5、5のスケールで取っています。なぜ令和3年度の重要度かということ、今、途中でアンケートを電子で取っているのですが、アンケートを回答するのに大体8分ぐらいかかるので、重要度も併せて取ってしまうと16分かかってしまうという中で、多くのサンプル数が欲しい中では、重要度はそれほど変わらないだろうという仮説の下、満足度だけ今取っているところでございます。来年は郵送でまた出すので、重要度も併せて取って、令和3年度の重要度と令和6年度の重要度の変化を見て、これだけ変わっているのだったら毎年取らなければと考えていきたいと思っています。

【会長】今の釘持委員の御指摘、なるほどと思っております。住民が思う重要度が低い項目の中に、実は町が重要だと思っている項目があるなら、そのギャップがなぜ生まれて、そのギャップを是正していくことも重要であると感じて、そういった議論もできるのではないのかという御示唆だと思います。先ほど来、重点項目の議論がありましたけれども、町が思う施策の重要度とギャップがある項目というのはあったりするのでしょうか。関連質問ですが、もしあるのであれば知りたい。

【釘持委員】個人的には、環境のこととかもやっている中で、せっかくすごく豊かな環境で自治基本条例なんかでも書かれているけれども、タイプⅣになっているのですよね。力を入れる必要がない。本当かな。もしかしたら神奈川県として期待しているのは、自然豊かなというところも期待してやっているけれども、一生活者として見れば、豊かさよりも利便性のほうがという気持ちもありますので、その辺りをどう埋めていくかというのは、まさに計画として議論していくことかなと思いました。

【小川委員】住民にとって、1個の事象があったときに、不便であるけれども緑が多いとか、そういう反対側にはまた魅力もあるわけなのです。総合的に何が重要かということ、魅力があるかどうかだと思うのです。そこが、ちょっと足を伸ばさ

なければ、いろいろ買物は行かれないけど、でも、この町は緑がきれいとか農産物おいしいとか、そっちにいけばいいわけで、公園が充実している、子育てがしやすい、自然がいっぱいあるというふうにいけば、マイナスのところはプラスに変えられる。要するに、全体的に私たち住民が見て魅力のあるまちになるかどうかというところに焦点を当てていったほうがいいかなと。そこは、35ページの分類でいって、重要度の高いところを見ると、確かにそうなのですが、これを1個1個考えたところで、果たして皆さんに分かっていただけるかどうかというようなことを感じました。なので、まずは町の魅力として何を打ち出して、例えばちょっと不便でも、ここは我慢して、この町、いいところだよというところを打ち出していけたらいいかなと思います。

【会長】今、釘持委員と小川委員の御指摘、もともとこのアンケートというのは、先ほど課長がおっしゃったとおり、進捗管理に資するものとして使おうということでしたので、そのために、このアンケート自体は無作為抽出ではないと思うのですが、とはいえ、ここから見える住民の考え、評価、魅力、重要度と、我々と言ったら変ですけど、行政側が考えているものとずれがあるのだったら、それを是正していかないといけないというような、そういった使い方を多分するためのものなのだろうなど。そういう意味では、先ほど来議論になっている今回のテーマの議論の材料にも使えそうだなと、お二人の意見を拝聴しておりました。

【高橋委員】今、魅力と言われましたが、魅力というのは非常に抽象的な表現で、個々人によってみんな違うと思うのです。だから、今、小川委員が言われたように、確かに緑があれば魅力なのだろうけど、いや、交通の便のほうが魅力だよという人もいると思うのです。だから、その価値観というのは果たして一貫通貫にできるかなというのがちょっと疑問になるところなのです。

【会長】まさにそれを因数分解しようとしたのがこのグラフになるわけですが、逆に、そうすると、全体が見えなくなってしまうことの難しさということ。

【及川委員】町として魅力なのかもしれないし、あるいは、町としての将来像ということだと思うのですが、どこに持っていきたいのかというのがはっきりしないままにこういうを進めているように見えるのです。例えば、総合計画の最初的时候も、私だけではなくてほかの委員からも意見が出たと思うのですが、要は、総花的に何でもかんでもよくしましうみたいなところから計画が始まってしまっていて、ものすごく評価項目も多くて、全体として底上げしましうって、それはできれば一番いいのですが、先ほど来議論されている、将来どういう町にしたいのか、どうしたいのかということを考えてときに、やはり絞らないと、効果も出せないし、費用的なものも、さっき菊地さんが言われたように、例えば、どこかを増やそうと思ったらどこかを減らさないといけない、どうするの、やはりそこにいつてしまうのです。だから、観点は多分、先ほど来出ているので、魅力ある町とか、あるいは寒川の魅力をもっと高めるためにというのは抽象的かもしれないけど、まずあることはあるので、そうしたら、そこに対して何をいつまでにやれば魅力がアップするののどうかって、そこを考えていかないと。それによって、重点配分するとかいうことは、それはそれで議論していけば起用されること

も出てくると思うのです。そのところで、町として今ギャップのあるところはどこなのですか。さっきから質問が何回か出ていて、まだ伺えてないので、まず、町のギャップを感じているところ、あるいは、町として本来はこのところをもっと重点的にやりたいのだけど、アンケートを取ると違うというのを具体的にあらわしたら教えてほしいのですが、どうですか。

【会長】いかがでしょうか。個人的な意見でも結構です。

【事務局】先ほど部長からもありましたけど、今、町が抱えている大きな課題としては、この一帯、いわゆる、にぎわい交流創出ゾーンの部分と、倉見の新幹線新駅周辺のまちづくりと、あと公共施設、全体の老朽化が進んでおりますので、それをいかに、将来の人口も踏まえて再編していくかという公共施設の老朽化の更新問題、大きく言うとその3つが大きな課題になっていると思っています。その課題をどう解決していくかというところが、これから行政に課せられている大きな課題だと思っていますので、その辺り、大きな視点で言うと、大きな3つの課題を踏まえて、各施策とか事業にどう影響していくのかということまで見ていかなければいけないとは思っていますので、この審議会で、どのレベルで御議論いただくかということかなとは思っています。大きい視点で見ていただくのか、それとも、大きい視点を踏まえて、今回は具体的にここの事業、ここの施策についての課題を洗い出すとか、こうしたらよりよくなるのではないかとというような御議論をいただくのか、そこはどこのレベル感で議論を進めていくかということになるかと思えますけど、町として抱えている課題としては、先ほど言った3点が大きなところかなと思っています。

【高橋委員】今、課長が言われた、町として抱えている課題というか魅力というのかな、それはイコール町民の気持ちとはイコールになっているのですか。その辺のギャップが、先ほど及川さんが言われたように、ギャップが出ているのではないかなという気もしないではないのです。例えば、公共施設の老朽化というのは、これは将来の子どもたちにとっても重要な施設ですから、これはないがしろにはできないでしょう。公共施設といっても、学校だけの問題ではなくて、我々、生涯学習をやるための場所としても重要だろうというふうになると、それはやはり必要かなと。それでは、にぎわいゾーンは、確かに町全体のにぎわいを活性化するためには重要かなというようなウエート。だけど、公共施設のほうがやはりさらにウエートは高いのかなとかというプライオリティーが出てくるのかなという気もするし、新幹線の新駅周辺のまちづくりというのは私にはちょっとまだ分からないのです。というのは、今どきって言ったらちょっと失礼ですけども、二、三十年前からですね、新幹線は。今の時代で、まだ新幹線、寒川に停めるのは、寒川の活性化になるのかなと、本当にそれできるのかなという、そういう私個人の考えなのですが、町なり県なり、本気になって金を出して、膨大な費用がかかるわけです。工事して駅を造る、あるいはまちづくりをするためには、本当にそれだけの覚悟というか、あるいは住民が重要性を持っているのかというようなことのそれぞれの項目で、フィードバックをまた今、すべきではないかと思うのです。

そういう意味では、これからの2040という中には重要な位置づけになってくるはずですから、そういうことも一つ議論する必要があるのかなとは思いますが。当然、政治的な問題ですから、議会で議論を十分してもらうのも重要でしょうけど、町民の意見としても、やはりこういう機会に意見を交換するのがいいのかなと思うのです。

【齋藤委員】今課長が、現状、町の重点と位置づけられるのは3点ありますと。それは何かというと、公共施設、にぎわいゾーンの問題と駅前、倉見開発問題、この3つが大きな問題ですと。これイコール、2040との整合性の中で非常に位置づけられているのだと明言できるのであれば、逆に言えば、そういうふうに絞り込みながら、どういうふうにやったらいいのかというふうにやるべき。私自身、駅前、都市計画とかいろいろな審議会に顔を出させていただいて、例えば、駅前、新幹線の開発と倉見駅前の開発との整合性を何を軸にしてやっているかという理解できなくなる。本来だったら、新幹線ができるかできないか、必要かどうか、これは議論は別にしても、一応寒川としては誘致しようといった上で手を挙げているのであれば、駅前の開発というのは、ある意味では一体化のためであるべきだろうが、委員会としては別々に審議されている。これは非常に無駄な審議をしているのではないかと。ここで見ますと、結構今、町の審議会の在り方の中にも、私なりに何で無駄なことをやるのか、2つのものを1つ、あるいは3つのものを1つにできるのだったらやって、そこで大きく中で捉えて、まちづくりをしていく必要があるだろうと考えている。例えば35ページの中で、一番何が大事かということ、まず、町は、いかに金をつくるか、金をもうけるか、やはり企業誘致しながら、遊休地をどう活性化して、いかに寒川町の財政を潤わせていくかということが一番大事なポイント。35ページの中でも、左下のほうにちょっと書いてあるが、そういった意味ではゾーンが非常に広がってしまって、今後の委員会の在り方の中では、これはいいねというのが私自身が整理がつかなくなってしまった。そういった意味では、2040の重点課題と今課長が言った3つの課題、ここの整合性の中で何を優先していったらいいのか。そういうところを絞り込んでいくことが一番重要じゃないかな。町の3つの課題なり、こちらに重点課題がありながら、それがばらばらの中で、全然違ったところの検討委員会とかやったところで意味がないなと思います。

【会長】ありがとうございます。改めて2040の計画を我々が再度読んだ上で提案をしたほうが、お互いの、事務局サイドと我々委員の間での齟齬がなくなるのかなとも思いました。あと、関連して齋藤委員がおっしゃっていた、いかにもうけるかということと言うと、先月末、総務省が今年度の交付税の算定の結果を公表してしまして、今年度、寒川町は地方交付税の不交付団体ということ。収入額が金融財政上は上回っていると。財政的には1700市町村がある中で70ぐらいしかない。数少ない不交付団体を今年度も維持した。改めて、次回のテーマの話とも関わるお話であったかと思えます。

【小川委員】今、町の課題を聞いた上で私たちがどうにかできるのって、にぎわいゾーンじゃないかな。新幹線も、いつ、どう具体的になるか分からないと、公

共施設も私たちがどういったところで、やるべきところがやっているので、にぎわいゾーンだったら夢が描けるかなと思ったのです。それに関して、それと施策タイプⅠの重要項目が幾つここで掛け合わせられるかというところを狙ったらいいかなと思ったのです。例えば、幼児教育の推進、家庭教育の支援ってありますけれども、この間も、寒川だけの問題ではなくて、どこでも子どもの居場所がない、学校の後、行くところがないとか、本当に学童も寒川町、ぱんぱんです。私もこの町で子育てしましたがけれども、本当に遊ばせるところがないのです。中央公園に行くのに自転車も子どもも車に積んでという感じで大変だったのですけれども、あとは、雨の日遊べるところがなくて、藤沢市まで子どもを車に積んで、アスレチックが室内でできるようなところまで遊ばせに行ったりしていたのですね。この問題って今でもぜんぜん解決していませんし、にぎわいゾーンをどう生かしましょうということと、そこに幾つ障害福祉であるとか子どもの居場所であるとか防災対策ができるか。そうしたら、そこに子どもたちが安全に来られるように、道路の整備であるとか町のバス、もくせい号を、そこを中心に子どもの放課後に合わせて便を増やして、子どもが乗りやすいようにするとか、そういうところで掛けていったらどうかなと思いました。

【会長】ありがとうございます。次回のテーマの重要な御提案だったと思います。事業レベルの話と大きなレベルの話を掛け合わす形での議論をするということですね。

【事務局】今、皆さんからいろいろお話を聞きながら、正直、私も答えを持っていないのでお恥ずかしい話なのですが、ただ、やはり先ほどの話がありましたけれども、行政として何をテーマとしていくのかといった問題、それと、町民一人一人が自分の生活の中で感じる問題。それは、結構レベル感がやはり違うと思うのです。我々行政を運営するというのは、経営管理として、いかに質のいい行政サービスを提供するか、それと、それにかかるコストはどうするのかという問題、その相反するものを両立させなければいけないという難しさがやはりあります。そんな中で、行政として持続させるということで考えると、今一番大きなテーマとしてあるのが人口問題です。人口減少社会の中で行政資源を生み出す人口が減っていくということになると、あらゆる行政サービスが減っていくことになりま

す。一方では、やはり町民の皆さんからいくと、子どもを持つ親からすれば、教育、子育ての問題、また、御高齢の方だと健康だとかそういった問題、いろいろなどころがあるのです。そういったところをどうすり合わせていくかという問題の中で、やはりテーマテーマは、先ほど高橋委員からありましたけれども、テーマによって人それぞれ違うという問題がありますので、例えば今回のお話の中で、どのレベル感にするかというのが、やはり皆さんの中で御判断いただかなければいけないなと思います。ただ、これがどこに書かれているのかというと、総合計画の序論と基本構想を見ていただきたいのです。序論の中では、こういったテーマでこういった課題なのだ、それに対して基本構想はこういった方向性に進んでいくよということが記載されています。ですから、そこからひもといて、先ほど小

川委員も、にぎわいのひもづけの話はされましたけど、どのテーマがやはり議論として、どのレベルのどのテーマにするのかというのを考えていただくのが一番いいのかなとは思いますが、今の段階で、こういったことでどうですかという御提案はなかなかないのですが、皆さん、それぞれの母体から出てきていますので、それぞれテーマが違うのでしょから、そういったところでいくと、選出母体というのもあるのですが、一町民として寒川町の今後の将来を見た中で、ふさわしいテーマとしてどこなのだというのをやはり御検討いただければなと思います。

今お尋ねいただきましたけど、最大の行政のテーマは人口問題です。人口問題をどうするかによって寒川町の将来が存続できるかどうかにかかってきますので、そういったところは、変な話、寒川町だけではなくて日本全体の問題だと思えますが、そういったところ、例えばそれをひもといていくと少子化の問題があるのですが、実は少子化の後ろには少母化があるのです。お母さんがいなくなる。要は、子どもが生まれず、お母さんが産まないという、そういうような関係性がありますので、そこには出会いがあるとかないとかという、掘り下げれば掘り下げるほど生活に密接した原因が出てきますので、ですから、どのレベルでお話し合いをしたほうがいいかなというのが、正直、私も今答えを持っていないのですが、皆さんの中で特に総合計画の序論、基本構想を読んでいただいて、町が目指す方向はどこなのだといったところの中から1つの事業をピックアップしていくというのが、このポートフォリオを見ながらピックアップしていくのが一番いい方法なのかなという気は、皆さんのお話を聞いていて私がちょっと感じたところでもありますので、今日、こうしようという答えはないと思いますが、ぜひともそういった視点で、今後、事務局からお尋ねがあると思いますので、その節はそういったものを御検討いただければと思います。

【小林委員】 さっき釘持先生のお話を聞いていて、P35は多分、カスタマーニーズだと思っていて、市民ニーズで、多分これを総合計画とか見ながら、コンセプトとダイレクションとターゲットカスタマーと、あと人を引きつけるアトラクター、あと収益とかも含めたプログラムみたいなものを包括していかなければいけないと思います。それで、テーマをつくると。あと、「つながる力で新化するまち」というのもあるし、さっきの3つの重点プランもあるので、市民ニーズ、カスタマーニーズと、我々、こういう中に入っている中でちゃんとコンセプトメイキングをして、どういうところを一番、総合的に包括的に狙っていけるのかというのがポイントかなと思いました。

【会長】 ありがとうございます。皆さんから後日、テーマの頭出しいただくときに、今、おっしゃっていただいた議論の仕方、あるいは議論のレベル感みたいなことについても何か御示唆いただけると、後で選ぶとき、選びやすくなるのではないかなと思います。

(5) 寒川町総合計画2040第1次実施計画事務事業評価結果について
＜事務局から資料3に基づき説明＞

【会長】ありがとうございました。事務事業レベルということで、一番細かいレベルの表、昨年度の評価の結果ですが、何か御質問ある方いらっしゃいますでしょうか。

【高橋委員】先ほどからいろいろ議論になっておりますけど、昨年度に、委員会の委員としての討論会を12月にやりまして、そのときに職員のモチベーションを上げるための施策ということで、いろいろ提案をさせていただいたのですが、10ページのこの報告を見ると、職員力向上事業が0%になってしまっているのですね。要は、何も進歩してなかったということになるのですか。せっかくモチベーションを上げるためにいろいろ議論したのは反映されていないのか。どういうふうに委員会で提案した議論の内容を現実に反映させたのか。昨年12月ですからまだ半年しかたっていないということで、今実行中ならば、こういうことをやっていますということをお教えいただければと思います。

【事務局】ありがとうございます。今おっしゃられたように、12月に御議論をいただいて、最終的に提言書としていただいたのが2月の審議会にいただいた形になります。そこから、今回の職員アンケートを取ったのが4月に実施しているという中で、御提言いただいて、御提言を基に人事制度などを見直していこうというところなのですが、その対策がまだ打っていない中でのアンケート結果でございます。令和4年度に実施したアンケート結果も踏まえて、皆さんからいただいた御提案も踏まえて、人事制度をこれから見直していくという形になります。どのように対策を講じてきたのか、また見直す予定なのかというのを、総合計画審議会、11月に予定している第2回なのか、2月に予定している第3回の中で御報告をさせていただければと考えております。

【高橋委員】分かりました。ぜひ報告を期待しております。よろしくお願ひします。

【会長】我々の提案を踏まえた取組が、次回の事務事業評価にどう反映されてくるのかというのは、我々の提案に対する職員側の評価が跳ね返ってくるかと思ひます。ほかにいかがでしょうか。

後段の先ほど課長がおっしゃった50%未満の事務事業を拝見しますと、いわゆるコロナの影響を受けてきそうなものも相当数あるのであろうということはどうかがえます。事務事業レベルですので、これが最終的に第1次の実施計画が終了する、1年間で結果が出る事務事業と出ない事務事業というのはたくさんありますので、そういった事務事業の特性が表れているものもあれば、コロナの影響があるものもある。最終的な事務事業評価を見るときには、数年間の変化と連動を多分踏まえて、最終的には評価する必要があるだろうと思ひます。昨年度に限った形での評価になりますが、皆さんのほうで特段なければ議題は以上となります。

	<p>5 その他 事務局より次回会議の開催予定の事務連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回会議11月頃、委員同士の議論の場として開催。後日、テーマの提案及び日程調整を依頼予定。 <p>【会長】最後に、皆さん、委員のほうからありますか。</p> <p>【森井委員】いろいろありますけれども、今日はすごいなと思って聞いていたのですが、やはりだんだん年を取ってくると、自分でどうやって生活していくかと。一番今困っていることは、年寄りの人たちは交通機関、近くに買物に行ける場所が本当にないのです。バスも走っていない。そこに歩いて行くまでも大変だとかというのが地域によってはあるのです。持ちきれないところもあるかもしれないけど、そういうところが今後どうなっていくのかなというのを考えられればいいと思います。</p> <p>【会長】ぜひ民生委員の立場として、次回の議題の御意見もいただければと思います。</p> <p>○閉会</p>
資料	<p>令和5年度第1回寒川町総合計画審議会次第</p> <p>寒川町総合計画審議会委員名簿</p> <p>資料1 寒川町総合計画審議会の進め方について（案）</p> <p>資料2 寒川町総合計画アンケート調査結果報告書</p> <p>資料3 寒川町2040第1次実施計画令和5年度事務事業評価結果（令和4年度実施事業分）</p> <p>参考資料1 寒川町自治基本条例</p> <p>参考資料2 寒川町総合計画審議会条例</p>
議事録承認委員及び 議事録確定年月日	菊地 端夫（令和5年9月19日確定）